

「いのちを考える」授業 ～動物と共に生きる～ 学習指導案

大阪市動物管理センター分室

授業者：生活環境指導員、獣医師

1 主題名

「いのちを考える」 [内容項目 D- (19) 生命の尊さ]

2 ねらい

個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てる。

3 主題設定の理由

動物の愛護及び管理に関する法律では、人と動物が共生する社会の実現を図ることが目的として明記されており、動物の所有者の責務については、命あるものである動物の所有者として、その動物を適正に飼養し、動物の健康及び安全を保持すること、動物が人に迷惑を及ぼすことがないように努めること、又、動物の所有者は、その所有する動物がその命を終えるまで適切に飼養すること等が求められています。

当市においては、犬・猫の糞尿や放し飼い等の不適切飼養に関する苦情が例年、多数寄せられ、さらに引き取る犬・猫の頭数も減少が見込めず、当センターにて収容した犬・猫の譲渡に努めているものの、依然として殺処分をしなければならない状況です。

いっぽう、教育基本法の教育の目標には「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」が明記され、教育活動全体で「生命を大切にする」指導の充実が求められています。

平成 29 年 7 月の小学校学習指導要領（平成 29 年告示）特別な教科「道徳編」における解説において、第 3 章 D＜第 5 学年及び第 6 学年＞ に「生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」とあります。

今回、上述した大阪市の現状を伝え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、人と動物の関わりについて考えてもらう中で、自身の発言や行動が、誰かの未来に影響を与え得るという感覚を育むことなど、人間の根本的な特性に気づくことを目的とします。

4 授業内容および学習の流れ（1 時限：45 分間）

大阪市動物管理センターの職務や活動から、犬猫等が放棄された要因や、殺処分の現状等についての講義を聴き、ワークシートや啓発資料を用い「いのち」について主体的に考え、児童同士の意見交換から理解を深める授業内容を予定しています。

- ・導入（5分）
- ・講義①・ワークシート記入・発表（10分）
- ・講義②・ワークシート記入・発表（10分）
- ・意見交換、ふりかえり（15分）
- ・アンケート記入（5分）

学習活動	指導上の留意点
1 動物に関わった経験	児童たちが、動物に関わった経験があるか聞き取りつつ、授業をはじめ。
2 動物を飼うことの大切さ	動物を飼って大変だった経験、楽しかった経験を聞き取る。
3 大阪市での犬猫の収容と処分数	大阪市動物管理センターで収容された犬猫の現状や、殺処分の対象となる状況を伝える。表現等については心的安全性の配慮を行う。
4 事例	飼い主の転居や病気等で犬や猫を手放さざるをえなくなった状況を仮定し、どうすれば防げるのか児童に考えさせる。児童同士の意見交換から「いのち」について考え、理解を深める。
5 メッセージ	犬や猫を飼う前に家族と話し合い、最後まで大切にお世話できるか、飼えない場合も含め、あらためて考えてほしい。
6 アンケート	受講した感想等を記入し、ふりかえりをする。

5 使用する教材等

- ・講義スライド
- ・ワークシート、アンケート
- ・その他啓発資料

6 本授業の根幹

- ・動物のいのちから、人は誰かに影響され、誰かに影響を与えながら生きていること、言動や行動のつながりの中で生きていることに「気づく」ための時間を提供します。
- ・正解を押しつけない、それぞれの感じ方の違いを尊重する、子どもが安心して参加できる、多様性を前提にする、生徒の「気づき」を中心に置きます。
- ・殺処分についての伝達には十分に配慮（心的安全性を確保）し、価値観の押しつけや飼養者および行政等の批判はしない、生徒に重い判断を背負わせない、あくまで「気づき」に留めることとします。